



校長室だより 笑顔



◆さくら児童会スローガン：助け合い 夢に向かって あかいつ子◆

さくらだいくん

感染症予防の徹底

◆新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため音楽朝会を延期しました。◆

11月17日（火）に東松島市内で初となる新型コロナウイルス感染者が確認されました。本校では18日に音楽朝会を予定しておりましたが、感染拡大防止のために取りやめました。子供たちの笑顔は健康な体があってこそです。職員会議で、感染症予防ガイドラインの遵守と徹底で、慣れや油断が生まれ無いうに共通理解を図っています。ご家庭でも予防に取り組んでください。8月に配布した本校の感染症予防ガイドラインを再度確認願います。（本校HPに掲載）今後も安全を最優先した柔軟な学校運営に努めてまいります。ご協力をお願いいたします。



5年生！花山宿泊学習。最上級になるための準備！



励まし合って御駒山頂上へ



かまどでピザ作り

10月下旬、5年生の花山宿泊学習が開催されました。ナイトハイク、野外炊飯、焼き板づくりなど、7月に予定していた活動の大半を実施することができました。沢登りは寒さでできませんでしたが、代わりに登山に挑戦し、紅葉の花山湖を御駒山から見下ろしては、大自然を満喫しました。自然体験と共に集団生活を学ぶ宿泊学習では、責任感や協調性、リーダー性を育み、最上級生になる準備にもなりました。



6年生！修学旅行。いぶき太鼓28代目のプライドを披露！



ホテルで赤べこ作り体験



迫力あるいぶき太鼓の演奏



会津藩校日新館で弓矢体験



11月初旬に6年生が会津・猪苗代方面へ修学旅行に行きました。コロナ禍の中、宿泊先や見学先は感染症予防対策を徹底していました。子供たちは鶴ヶ城や飯盛山、野口英世記念館等で学習テーマに合わせて調べ活動を行いました。

今年の修学旅行は例年と違う行程がありました。それは和太鼓を作っている「川田太鼓工房（南会津町）」を訪問して、和太鼓改修のお礼にいぶき太鼓を演奏することです。会場には工房の平野社長、社員の方、指導者である関先生をお迎えし、いぶき太鼓初代からこれまで受け継いできた6年生の思いも背負い、28代目のプライドをかけた演奏を披露しました。平野社長より「演奏に全力で取り組む姿から、皆さんの一生懸命な熱量が伝わってきました。ありがとうございます。」と、うれしいお言葉をいただきました。披露の様子はKFB福島放送に取材され、次の日に放映されました。

友達と楽しくおしゃべりしたホテル、ハートマークの鯉を探した五色沼など、思い出に残る旅行になりました。

11月の朝会のお話は給食のお話です。スクリーンを見て考えながら聞きましょう。はじめに結論をお話します。「給食を残さず食べる子になってほしい」ということです。そのわけを三つに分けてお話します。

はじめに、給食を残さず食べる子になってほしいわけ1 「食事の大切さ」

「なぜ? ご飯を食べなくてはいけないのか?」それは、頭と体を動かしたり、成長させたりするためです。ご飯を食べて蓄えた栄養やエネルギーは体を動かしたり頭でなにかを考えたり、覚えたりするときに使われるのは知っていますか? 実は眠っている間にも使われているのです。だから、夜ごはんのエネルギーは、朝にはあんまり残っていないのです。



もしも朝ごはんを食べなかったら、午前中はエネルギーが足りないまま。本当はできるはずのこともエネルギー不足でできなくなります。だから「早寝 早起き 朝ごはん」が大切と言われているのです。朝ごはんを食べておけば、勉強にも、運動にも使うエネルギーは満タンです。授業やテストの時、体育の時にも、頭も体もフル回転できます。

では、午前中に使って無くなったエネルギーをまた蓄えなければなりません。それがお昼ごはんの給食になります。お昼から、夜ごはんまで体を動かしたり、頭で考えたりするときに使うエネルギーをしっかりと取り入れるために、給食を残さず食べることを目指しましょう。

★★★★☆☆★★★★☆☆★★★★☆☆★★★★☆☆★★★★☆☆★★★★☆☆★★★★☆☆★★★★☆☆★★★★☆☆

次に、給食を残さず食べる子になってほしいわけ2 「食品ロス問題」

「食品ロス」とは、食べられることができたのに捨てられる食品のことです。日本では、1年間で2千550万トンの食品が腐ってしまったり賞味期限が切れてしまったりして、捨てられています。このうち、まだ食べられるのに捨てられる食品、いわゆる「食品ロス」は612万トンに上ります。612万トン?? と言われても想像ができません。どれくらいでしょう? 赤井小のプールの何杯分になるかで考えてみましょう。答えは、日本だけで1年間で プール1万7千杯分の食べ物が捨てられているのです。これは、世界中でお腹がすいても食べ物がなくて、辛い思いをしている人や食べられずに病気になり苦しむ人々に必要な食糧1年間約390万トンの約1.6倍に相当します。日本人が食品ロスを無くすだけで世界中の困っている人を助けられるのです。まだ食べられる食べ物が捨てられていることに「もったいない」と思いますね。そして今、世界中で「もったいない」「もったいない」のさまざまな活動が始まっています。ですから、食品ロスを減らすためにも私たちは給食を残さず食べることを目指しましょう。



★★★★☆☆★★★★☆☆★★★★☆☆★★★★☆☆★★★★☆☆★★★★☆☆★★★★☆☆★★★★☆☆★★★★☆☆

3つ目、給食を残さず食べる子になってほしいわけ3 「感謝」

その他に給食を残さず食べてほしい理由があります。一つは私達が食べているお肉や野菜はもともと生きていた動物や植物です。つまり命でした。その命が料理されて私たちのエネルギーになるのです。残さず食べることはその命に感謝することになります。また、皆さんの健康や成長を考えて一生懸命においしい給食を作っている方々がいます。また、その給食を食べるために働いて給食費を収めているみなさんの家族がいます。皆さんは感謝をして一噛み、一噛み、おいしさを味わって、残さず食べてください。残さず食べることをの方々へのお礼になります。給食を残さず食べることを目指しましょう。今日は、給食を残さず食べることのお話をしました。野菜やお肉、お魚は、大切な地球の資源です。その資源をエネルギーとしていただく私たちは、10年後、20年後、100年後の地球や未来を守り、さらに良くすることに努めなければなりません。残さず食べることで自分の体と心の成長だけではなく、世界で困っている問題を解決することができるのです。



★★★★☆☆★★★★☆☆★★★★☆☆★★★★☆☆★★★★☆☆★★★★☆☆★★★★☆☆★★★★☆☆★★★★☆☆

東松島市はSDGs活動「持続可能な世界を実現する17の取組」を行っています。その中にも食べ物を大切にすることが入っています。今日から、毎日の食事を未来の自分と世界のためにおいしく、たのしく、完食を目指して食べてください。今日は、「給食を残さず食べる子になってほしい」お話をしました。11月も挨拶に、学習に、運動に笑顔でがんばりましょう。以上でお話を終わります。



ぜひ、ご家庭でも家族団樂の中、楽しい話題で楽しい食事ができるといいですね。

前頁の修学旅行の引率で感じたことをお伝えします。……

和太鼓発表や班活動を見ていると、昨年(5年生時)の花山へ引率した時と比べて、自己解決力と進んで取り組む主体性が育っているのを感じました。成長ですね。